



ぬいぐるみおとまり会 開催しました 情報館の活動をふりかえる展

「本のちから」(第2回)

蔵書点検のための休館のお知らせ
閉架書庫公開



就任のご挨拶

十日町情報館長 岩田貴夫

皆様、こんにちは。4月から、情報館の館長としてお世話になっております岩田貴夫と申します。

このたびの就任に際し、一言ご挨拶申し上げます。

現在、コロナウイルスの影響を乗り越えつつあり、この長い試練を経て、私たちのコミュニケーションや情報の取り方に多くの変化がありました。アフターコロナを迎え、改めて情報館の役割が問われている今、情報館がただの情報提供の場で終わることなく、学びと発見の活動を支援し、地

域社会の結びつきを強化する機能を持てるような場となることを望んでおります。

また、この情報館を、皆さんが安心して訪れられる居心地の良い空間として、さらには新たな学びの形を提案する場として発展させていきたいと考えています。みなさんの多様なニーズに応え、豊かな知的交流の舞台を提供できるよう、スタッフ一同、努力してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

〈令和5年度〉情報館・分室の個人貸出数と資料購入費

令和5年度の個人貸出数は、情報館、分室合計で266,110冊でした。令和4年度の281,718冊と比べて約5.5%の減少です。そのうち情報館は211,082冊、分室は55,028冊で、それぞれ前年度比約4.5%減、約9.2%減という結果でした。

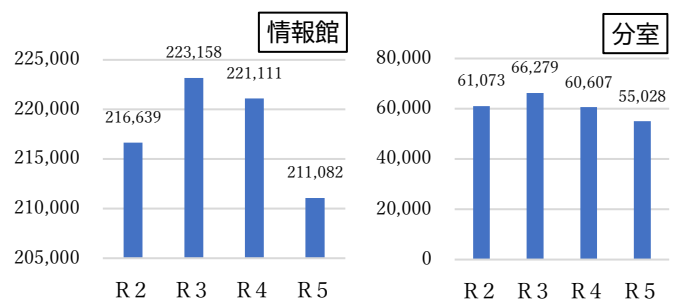
1日平均の利用者人数(資料を借りた人の数)は、全館で285.0人と、令和4年度の278.6人に比べて6.4人増えています。一方、1日平均貸出冊数は、情報館635.8冊(前年度比-16.4冊、以下同)、分室210.0冊(-23.1冊)と、ともに前年度を下回っています。利用者人数は増えているものの貸出冊数が減っている、つまり、1人の方がいかに借りる冊数が減っているということがわかるでしょう。

十日町市の令和5年度末人口は47,627人でした。前年度比約2.3%の減少です。しかし、情報館全館の貸出冊数が前年度比5.5%減であることを考えると、人口の減少率以上に貸出冊数の減少幅が大きいことが分かります。市では、第二次十日町総合計画に基づく後期計画(令和3年~7年度)の「まちづくりの目標値」として、市民一人あたり図書等の貸出冊・点数を「5.80冊・点/人」と設定しています。この目標値は、令和3年度では5.82冊と上回ったものの、4年度5.78冊、5年度5.59冊と、2年連続で目標を下回っています。

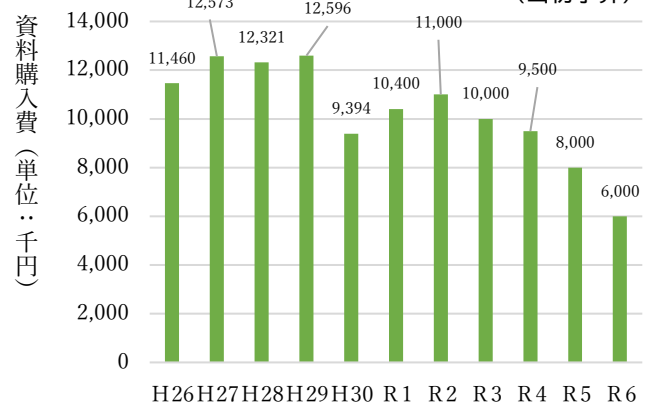
減少の要因のひとつとして、資料購入費の減額が考えられます。令和4年度の当初予算額は950万円でしたが、令和5年度は約15.8%減の800万円でした。仮に1冊1,600円として計算すると、約5千冊の本を購入できる金額です。5千冊は多く感じるかもしれませんが、令和4年の1年間に出版された本の数が6万6千冊以上であることを考えると(出版科学研究所『出版指標年報』)、わずか7.5%ほどしか購入できない額です。

令和6年度の資料購入費(当初予算)は、5年度より25%少ない600万円となっています。これは平成27~29年度ごろの半分以上の金額です。すでに新聞や雑誌の購読紙数を減らすなどの対応を余儀なくされていますが、今後は新着資料の冊数も減ることが予想されます。厳しい状況が続きますが、低予算でも工夫を凝らし、喜んでいただけるサービスや資料の提供を続けられるよう努力してまいります。

個人貸出冊数の推移



十日町情報館 資料購入費の推移 (当初予算)



編集・発行／十日町情報館・NPO法人らいぶフォーラム

〒948-0072 十日町市西本町2丁目1番地1 TEL/025-750-5100 FAX/025-750-5103
「らいぶフォーラム」は、十日町情報館と図書館分室の図書館サービス業務を受託している市民による非営利団体です。2014年2月にNPO法人となりました。



ホームページ



Facebook



ぬいぐるみおとまり会 開催しました

第66回こども読書週間(4/23~5/12)のイベントとして、4月28日に春のおはなしぴよぴよスペシャル「おはなし&ぬいぐるみおとまり会」を開催しました。

お話と工作が終わったあと、ぬいぐるみたちは夜の情報館にお泊りしました。みんなで絵本を楽しむ様子などをアルバムにまとめ、プレゼントしました。

翌日迎えに来てくれた子どもたちは、一日ぶりの再会を笑顔で喜んでいました。



活動をふりかえる展 開催中！

令和5年度の情報館の取組みをパネルで展示しています。情報館、分室の貸出冊数などの統計や1年間の流れにはじまり、子ども読書推進活動やアウトリーチサービス、分室の紹介、講座やイベントの報告、貸出ランキング、新しく入った地域資料の紹介など、もりだくさんの内容です。もっとこうして欲しいといったご意見も募集しています。

期間は5月26日(日)まで。2階のインターネットコーナーとなりで開催中です。みなさんが知らない情報館の一面も知っていただけるかもしれません。ぜひお立ち寄りください。



5月のテーマ図書

■児童向け

たいせつなかぞく

『かあさんのサリー』、『オマヌケかぞくのたのしいいちにち』など、かぞくがテーマの本を紹介します。

とっておきの1冊

『百まいのきもの』、『ぼくとお山と羊のセーター』など、名作や話題になった本を紹介します。



■一般向け

母

『母、アンナ』、『母の最終講義』など、母親への思いが詰まった本を紹介します。

自然を感じる

『週末の縄文人』、『地球にじいろ図鑑』など、自然を身近に感じられる本を紹介します。



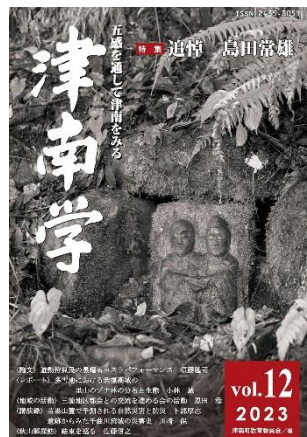
新着地域資料

『津南学』Vol.12

津南町教育委員会／編 ほおずき書籍 2024.3

「五感を通して津南をみる」をテーマに、津南の歴史、民俗、自然の魅力を追求する郷土研究誌『津南学』。12号は、旧川治村に生まれ、石造物や古文書、書道などの分野で大きな貢献をした故島田常雄さんの特集です。

ほかにも「森の学校」キョロロの学芸員・小林誠さんのレポート「多雪地における低標高域の里山のブナ林の分布と生態」、令和4年10月に開催された津南シンポジウム「苗場山麓ジオパークの防災を考える」の講演録など、充実の内容となっています。

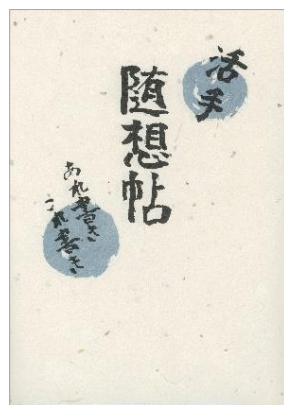


『活手 随想帖 あれ書きこれ書き』

井口澄夫著 2024.4

市内天池の井口澄夫さん(86)が、長年にわたってたたためてきた文章を1冊にまとめたもの。井口さんは15年ほど前に中央公民館で開かれていた随筆講座に参加。講座終了後も15人ほどの仲間で自主的に随筆の会として集まって書きたててきました。内容は身の回りで起きたこと、旅行、提言、趣味などと多岐にわたります。

本のオビには、井口さんの長男である井口清太郎さん(新潟大学大学院歯学総合研究科特任教授)の「媚びず 苦しめず 諦めず 人生を楽しんで生きる そんな生き方をした著者の日々が垣間見られる、健康長寿の秘訣は、まさにここにある！」という言葉が寄せられています。井口さんの集大成といえる1冊です。



雑誌スポンサーになりませんか？

雑誌スポンサーとは、企業や団体から情報館で所蔵する雑誌の年間費用を負担していただく制度です。スポンサーとなった雑誌の新刊カバー、書架などには、企業や団体名、広告を掲載することができます。雑誌のジャンルにより対象を選ぶこともできます。情報館で活動をPRしてみませんか？

新しくスポンサーになっていただける企業・団体を募集中です。詳しくは十日町情報館(025-750-5100)までお問い合わせください。





本のちから⁽²⁾

“くりかえし”の大切さ

新年度がスタートして1か月が過ぎました。

子どもたちは、新しい学年、クラス、環境に慣れて少し落ち着いたころでしょうか。

3月の終わりに幼稚園で読み聞かせをしたときのこと。その日が登園する最後の日だった年長さんが数人いました。慣れ親しんだ幼稚園での最後の読み聞かせです。どの子も集中して、気づけば30分もお話の世界に入り込んでいました。先生方が日ごろから読み聞かせに大変熱心で、習慣になっているからこその子どもたちの姿です。

その日の夕方、ピンポンとインターホンがなり、モニターを見ると近所に住む小さなお客さまが立っていました。玄関ドアを開けると、はにかんだ笑顔で「今日は読み聞かせに来てくれてありがとう」と、わざわざお礼を言いにくてくれたのです。

そして、その日読み聞かせたいいくつかの本の中の1冊『どろんこハリー』について話をしてくれました。大好きな本だということ、そして幼稚園にもあり、何度も読んでいるということ。『どろんこハリー』は、長い間子どもたちに読みつがれている、大人気の絵本です。おそらくどの園にも置いてあり、繰り返し読まれているのではないのでしょうか。

その日、読み聞かせを聞いてくれた子どもたちの様子をじっくり見ていたら、どの子もうなずきながら聞いてくれていることに気がきました。「そう

子ども読書活動推進コーディネーター

林 篤子



そう、次にハリーはこうなっていくんだよね…。」ページをめくるたびに自分の中で、すでに知っている展開になることに、ウンウン、とうなずいています。そして、実際にそうっていくことに、得意げな表情の中、キラキラと輝く瞳で絵本を見つめていました。読み終わると、子どもたちがニコニコしながら顔を見合わせている姿が印象的でした。

私はふと、自分が子どものころ、同じ本を心ゆくまで味わいたかった気持ちや、知っている本をもう一度読み直したときの、安心感を思い出しました。環境が変わるときや心が疲れたとき、人は無意識のうちに変わらないものを求め、同じことを繰り返してやってみることで、安心感と自信をもち、前に進むことができるのかもしれません。

「同じ本ばかり選ばないで新しい本に出会ってほしい…」という親御さんのお声をしばしば耳にします。が、この日あらめて、繰り返し読みたいと思う子どもたちの気持ちも大切にしたいと思いました。

ジーン・ジオン／ぶん マーガレット・ブロイ・グレアム／え わたなべ しげお／やく
(福音館書店)



5月19日(日)は家読(うちどく)の日

「家読(うちどく)」は「家庭読書」の略で、「家族ふれあい読書」の意味です。毎月第3日曜日は家族で読書を楽しみましょう。

新着資料紹介 3月21日～4月20日分

【一般図書】

●『明日も生きていこうと思える絵本101』赤木かん子／著 草思社(総記 019ア) ●『住まなくなっても守りたい』浅原昭生／著 秋田文化出版(中里 291ア) ●『最後は住みたい町に暮らす』井形慶子／著 集英社(松之山 365イ) ●『ウルトラ図解おとなと子どもの頭痛』清水俊彦／監修 法研(健康医学 493.7ウ) ●『「はやぶさ2」は何を持ち帰ったのか』橘省吾／著 岩波書店(技術工学 538タ) ●『老いてお茶を習う』群ようこ／著 KADOKAWA(芸スポ 791ム) ●『ゼロ打ち』相場英雄／著 角川春樹事務所(飛渡 913.6ア) ●『悪魔の審判』神永学／著 講談社(下条 913.6カ) ●『姥玉みつ』西條奈加／著 潮出版社(吉田 913.6サ) ●『あいにくあんなのためじゃない』柚木麻子／著 新潮社(日文 913.6ユ) ●『ひとりになったら、ひとりにふさわしく』下重暁子／著 草思社(日文 914.3セ) ●『マリコ、アニバーサリー』林真理子／著 文藝春秋(日文 914.6ハ) ●『アフガンの息子たち』エーリン・ペーション／著 小学館(外文 949ベ)

【児童図書】

●『恋愛ってなんだろう?』大森美佐／著 平凡社(ティーンズ 152オ) ●『古代遺跡の学校』森谷公俊／監修 ニュートンプレス(児童一般 209コ) ●『おもしろすぎる山図鑑』ひげ隊長／著 主婦の友社(児童一般 786ヒ) ●『ナナのおけいこ』いとうひろし／作 徳間書店(川西児童 913イ) ●『放課後ミステリクラブ 3 動くカメの銅像事件』知念実希人／作 ライツ社(児童日文 913チ) ●『ジョン』エマニュエル・ブルディエ／著 あすなろ書房(児童外文 953ブ) ●『のりものいっぱい』青山邦彦／作絵 金の星社(水沢児童 Eア) ●『かげわに』岩田明子／著 文溪堂(絵本 Eイ) ●『ありえない』クレーン謙／え ハッピーオウル社(絵本 Eク) ●『すごいぜほんのちからって!』ロレンツォ・サンジョ／え イマジネーション・プラス(下条児童 Eサ) ●『109ひきのどうぶつかくれんぼ』のはなはるか／作・絵 ひさかたチャイルド(川治児童 Eノ) ●『おばけのやだもん しんごうだいパニック!』ひらのゆきこ／さく・え 教育画劇(絵本 Eヒ) ●『ぼくはここにいるよ!』ふじかわたかこ／さく・え ニコモ(中条児童 Eフ)

蔵書点検 休館日のお知らせ 6月10日(月)～17日(月)



蔵書点検は、情報館・分室に所蔵する資料の一斉点検です。約26万点の全資料を確認し、行方不明の資料を探す、蔵書構成を見直すなどの大切な作業を行います。休館中はご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。



●休館中の返却は、情報館、川西・松代・松之山分室ではブックポストをご利用ください。CD・DVD・ビデオや大型絵本、相互貸借資料は、休館明けの6月18日(火)以降にカウンターでお返しください。それ以外の分室では、各公民館の窓口にご返却ください。

2024 第66回 こどもの読書週間 4月23日(火)～5月12日(日)



標語「ひらいてワクワク めくってドキドキ」

本や読書により楽しめるイベントをご用意しています。お気軽にお立ち寄りください。

■みんなでつくろう 春のにわ

みんなにおすすめしたい本、好きな本をかいて、壁いっぱいになつて春のにわをつくろう！

日時／4月23日(火)～5月12日(日)

場所／情報館スロープ

川西分室、松代分室



■知ってほしいな 便利なサービス

情報館の便利な使い方をていねいに説明します。

日時／5月4日(土・祝)・8日(水)・12日(日)

①午前11時～ ②午後2時～ ※1回45分程度

会場／情報館 喫茶コーナー

内容／インターネットサービス、セルフ貸出返却機の
利用方法など

対象／一般

定員／なし(申込み不要)

■情報館の活動をふりかえる展

日時／4月23日(火)～5月26日(日)

※5月13日(月)は休館日

会場／十日町情報館 インターネットコーナーとなり

その他の催し

●水防フェア

日時／5月10日(金)～31日(金)

午前9時～午後7時 ※13(月)・27日(月)は休館日

会場／2階ギャラリー



5月のおはなし会

()内は対象



◆情報館

4日(土)・11日(土)・25日(土)

／おはなしびよびよ(乳幼児)

18日(土)／読み聞かせの会 どうぶり

(幼児～小学校低学年)

※5月はおはなし「たまてばこ」はおやすみです。

◆川西分室

18日(土)／おはなしの会「ふきのとう」

(乳幼児～小学校3年生くらい)



◆松代分室

11日(土)／おはなしたんぽぽ(幼児～小学校低学年)

第88回名作読書講座

『若い人』石坂 洋次郎／著(新潮社)

容姿端麗、頭脳明晰にもかかわらず、たびたび問題を起こす女学生・江波恵子。理知的で美しい女教師・橋本スミ。北国のミッション系女子校で国語教師を務める28歳の間崎慎太郎は、スミに惹かれながらも、早熟で危うい魅力を放つ恵子からも目が離せません。恵子たちの修学旅行に同行することになった間崎は、旅先でスミの義母に会うことになり……。

何度も映画化、テレビドラマ化された青春文学の金字塔にして、『青い山脈』などで国民的な人気を博した石坂洋次郎の出世作です。



日程／5月23日(木) 午後7時30分～8時45分

会場／第1集会室 対象／中学生以上

定員／25人(申込み不要) 講師／庭野三省さん

閉架書庫を公開します

情報館の閉架書庫(へいかしょこ)には、8万点以上の資料が収められています。いつもは入ることができない閉架書庫を公開します。ご希望の方は、当日1階カウンターの職員へお声がけください。



日時／5月19日(日)

午後2時～5時

【今後の公開予定日】 ※予定は変更する場合があります

6月23日(日)、7月21日(日)、8月18日(日)、9月15日(日)

10月20日(日)、12月15日(日)、2月23日(日)、3月16日(日)

十日町情報館 開館時間・休館日

開館時間 午前9時～午後7時

休館日 第2・第4月曜日(当分の間)

特別整理期間、年末年始(12/29～1/3)

〒948-0072 西本町二丁目1-1

電話／025-750-5100 FAX／025-750-5103